

～泉崎村役場庁舎で湯川隆氏の彫刻作品が常設展示開始～

令和8年4月28日（火）より、泉崎村役場庁舎にて、彫刻家・湯川隆氏の作品が年間を通じて常設展示されることになりました。この作品は、木とテラコッタを組み合わせた女性像「白いセーター」「Gotico」「与えられしもの」の3点で、村の新たな芸術・文化的シンボルとして、教育文化事業の発展が期待されています。

湯川氏の紹介

湯川隆氏は、東京都出身で、いわき市にアトリエを構え活動する彫刻家です。人体や手の表情を通じて精神性や「重力からの解放」といった概念を表現する作品で知られ、国内外での展示のほか、個展開催や彫刻講師を務めるなど、地域に根ざした文化・教育活動を続けております。



役場に展示された彫刻、左から箭内村長、湯川氏、小野教育長

作品の特徴と今後の展望

湯川氏の作品は、自然素材の温かみと造形の力強さが融合した作風が特徴です。今回の展示は、彫刻家・湯川氏のご厚意により、村の「芸術・文化がかおる」むらづくりの一環として企画されました。また、令和9年10月には、泉崎カントリーヴィレッジで第2回国際彫刻展の開催が予定されており、第1回（令和6年10月）に続く国際的な芸術交流の場となることが期待されています。

教育・地域振興への期待

箭内村長は、「文化のかおる泉崎、芸術の風が村の変化を後押しする」とコメントしました。小野教育長は、「小・中学生向けの生きた体験になる良い機会。子どもたちの美術教育と地域振興を結びつけたい」と意欲を示しました。

詳細情報

- ・展示場所：泉崎村役場庁舎ロビー
- ・展示期間：令和8年4月28日～通年
- ・第2回国際彫刻展：令和9年10月（予定）

